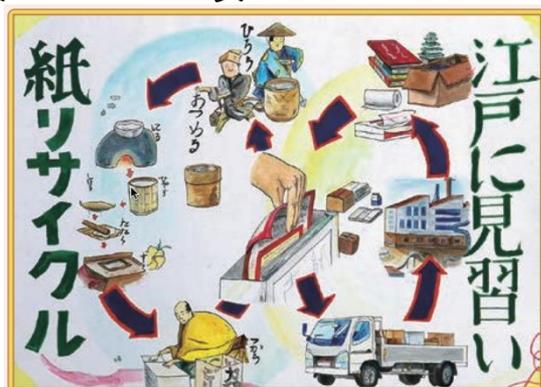


大作戦シリーズ パート18

“紙リサイクルコンテスト” 2021 に応募しよう大作戦！

作文部門かポスター部門に応募して文部科学大臣賞をねらおう！裏面に昨年度入賞作品掲載！



★主催：公益財団法人古紙再生促進センター 後援：文部科学省他

- 1 テーマ 紙リサイクルに関する活動・体験やアイデア
- 2 募集部門
 - ①作文部門・・・原稿用紙400字詰3枚(1200字)以内で手書きに限る
 - ②ポスター部門・・・四つ切(39.5cm×54.5cm)以内、
 絵の具・パステルなど画材は自由
 立体は不可。(古紙などを使用した貼り絵、切り絵の表現は可)
 ※裏面にポスターの意図を記入すること。共同制作は不可
 ※紙製容器包装識別マークは作品に使用しない
- 3 応募方法 ※担任→校長まで “たちばなマインド”を發揮しましょう
 作品1点ごとに①作品名 ②氏名 ③学校名・学年などを記入した応募票(下段)を
 のりやステープラで添付する ※作品は返却されません。
- 4 学校への締切締切 2021年12月8日(水) 厳守
- 5 審査発表 2022年2月上旬
- 6 賞と商品
 - ①文部科学大臣賞(作文部門1点、ポスター部門1点)・・・賞状・盾・図書カード5万円
 - ②金賞(優秀作品4点)・・・賞状・盾・図書カード3万円
 - ③特別金賞(優秀作品3点)・・・賞状・盾・図書カード3万円
 - ④銀賞(4点)・・・賞状・盾・図書カード1万円
 - ⑤銅賞(12点)・・・賞状・盾・図書カード2千円
 - ⑥学校特別賞(2校)・・・賞状・ギフトカード5万円
 - ⑦学校奨励賞(2校)・・・賞状・ギフトカード2万円

※応募作品のもっとも多い学校(小中各1校)
- 8 参加賞・・・紙リサイクルノート
- 7 その他
 過去の受賞作品や応募の手引きなどは、HP公開中 次のQRコードやURLから

http://www.prpc.or.jp/activities/public_relations/?id=contest#contest →



全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021 応募票

作品名		該当する項目に○をつけてください	
氏名 (ふりがな)	学年	年	応募部門
学校名・ 教室名	担当先生名		1 作文 小学生 2 作文 中学生 3 ポスター 小学生 4 ポスター 中学生
			団体応募 個人応募 ※

全て記入して、各作品の裏に必ず貼り付けてください。

※個人応募の方は①住所、②電話番号、③FAX番号をわかるように記入し、同封してください。

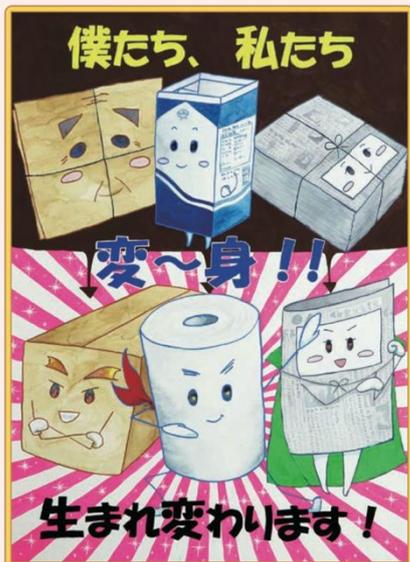
※応募票が複数必要な場合は、公益財団法人古紙再生促進センターのホームページよりダウンロードできます。 <http://www.prpc.or.jp/>

昨年度の受賞作品より



文部科学大臣賞 ポスター部門

佐世保市立日宇中学校 1年
狩集 百葉
変~身!!



ポスター-中学生部門

金賞

十文字中学校 1年
木村 柚香
古紙から美しい未来へ



作文中学生部門

金賞

気仙沼市立松岩中学校 3年
佐藤 優香
広げよう「リサイクルの輪」

私の家では環境問題に関心のある妹が中心となって、「紙資源」のリサイクル活動を行っています。新聞紙やダンボール、雑誌、雑紙などを分けて保管し、ある程度の量になったら資源の収集所へ持って行きます。私はリサイクルについてよくわからなかったのですが、妹と一緒に市の広報誌でリサイクルの仕組みについて調べ、関心を持つようになりました。捨てられたごみになってしまう紙資源が、1 捨てない、2 分ける、3 出す、4 使う、ことを通して、貴重な資源となっていくことは素晴らしいことだと思います。この活動をもっと多くの人に知ってもらい、より多くの人に一緒に活動してもらいたいと考えた私は、父にお願いしてみました。「お父さんの職場でもやってみたらいいんじゃない?」と。父は「いいよ」と即答してくれました。そして私と父は職場でのリサイクルの方法や声かけについて相談しました。父の職場では印刷機やコピー機があり、毎日ものすごい量の紙が使われているそうです。情報管理にはとても厳しく、個人情報などが載っている紙はシュレッダーにかけたりしているそうです。父は職場の管理職の方や同僚の人たちに声を掛け、個人情報もれるおそれのない書類や、お菓子などが入っていた空き箱については、用意したリサイクルボックスに入れるようお願いしました。

一週間後のことです。帰宅した父は荷物を降ろすこともせず、「優香、たった一週間でこんな大きな紙の束が四つもできたよ。」と、大きな手振りでリサイクルの成果を話してくれました。職場の多くの人が協力してくれ、なんと二五キロぐらいの紙を資源として回収できたそうです。また、すぐそばのゴミ箱に紙類を入れるのではなく、用意したリサイクルボックスに持ち寄ることで燃えるごみの量が減ったことも教えてくれました。父も私も本当にびっくりすると同時に、とても嬉しくなりました。ゴミ箱に捨ててしまえば燃えるごみになってしまうはずだったものが、多くの人意識の変化と少しの手間をかけることで資源となる。そして、そのきっかけが私の一言だったなんて。なんだか、とてもやる気が出て、もっとこの運動を広げたいと強く思いました。今、私は自分の通う学校でもリサイクル活動ができないかを考えています。父や妹、姉、母とも相談し、どうすれば学校の先生や友人の協力がもらえるかを考えています。まずは、関心を持ってもらうこと。そして、一緒に活動してくれる人を少しずつ増やしていきたいと思っています。そして、皆でリサイクル活動に取り組み、「活動の輪」をどんどん広げていきたいと思っています。